

電 力 情 報

NO. 18

平成26年6月27日

東 北 電 力 (株)

5月分の電力需給実績について

1. 電力需要について（表－1 参照）

5月分の販売電力量は、59億 5,400万kWh、対前年比96.5%の実績となりました。東日本大震災からの復興の動きが続いているものの、前年に比べ気温が高めに推移したことによる暖房需要の減少などから、4カ月ぶりに前年実績を下回りました。用途別の実績については、以下のとおりです。

○特定規模需要以外の需要（自由化対象以外のお客さま）

電灯は、東日本大震災からの復興の動きが続いているものの、前年に比べ気温が高めに推移したことによる暖房需要の減少などから対前年比91.6%の実績となり、2カ月ぶりに前年実績を下回りました。

特定規模需要以外の需要の合計では、対前年比92.2%の実績となりました。

○特定規模需要（自由化対象のお客さま）

業務用電力は、前年に比べ気温が高めに推移したことによる暖房需要の減少などから、対前年比97.6%の実績となりました。

特定規模需要の合計では、対前年比99.1%の実績となりました。

なお、産業用その他電力については、大口電力が大きなウエートを占めており、その概要は以下の参考のとおりです。

[参 考]

○大口電力

大口電力は、復興需要による高操業の動きが続いているものの、一部での生産減や自家発の稼働影響などから、対前年比99.5%の実績となり、8カ月ぶりに前年実績を下回りました。

2. 供給力について（表－2 参照）

5月の発電電力量の合計は、上中旬の気温が前年に比べ高かったことによる暖房需要の減少などから、62億6,400万kWh、対前年比98.0%となり、2カ月連続で前年実績を下回りました。

（自社水力）

出水率が106.4%の豊水となったことや、新潟・福島豪雨により停止していた発電所の運転再開により、発電量は前年を1億8,000万kWh上回る10億500万kWhとなりました。

（自社火力）

水力の増加などから、発電量は前年を9,200万kWh下回る40億kWhとなりました。

（自社原子力）

定期検査により、女川原子力発電所の全号機と東通原子力発電所1号機が運転を停止していることから、発電量はありませんでした。

（自社新エネルギー等）

地熱発電所の運転状況の違いなどから、発電量は前年を800万kWh下回る7,300万kWhとなりました。

（他社受電）

他社火力の運転状況の違いなどから、他社受電合計では前年を3億2,800万kWh下回る17億8,700万kWhとなりました。

以 上